

洋酒はなしのタネ

藤本義一
・佐々木侃司

(1)

トリスパーの止まり木にチョコ

ントとまつてハイボールやカクテ
ルをたのしむとき、話のタネとし
てもおもしろく、悪友をケムにま

いたり、チョイと女のコをウナラ
せる洋酒の知識、しかもスマート
な短かい話を、これから毎号続け
てまいります。よろしく。

今月はまず「バー」について一
席。この言葉、「バー」(BAR)

という英語からきているのですが
これが「酒場」とどんな関係があ
るのか、ナゾ解きを始めましょう

バーへ入るとカウンターの前で
スツール(足の高い椅子)に腰を
かけ、足を一段と高い所にのつけ
てからオモロロに「マテニー」と

かいうわけですが、いまのバーは
そのほとんどが、お客様に足をふみ
はさせないよう気をつかつて、

この足のせ場を板張りやコンク
リート塗りにしたり、スツールの
下のほうに足をのせる台を取りつけ
たりしています。これは語原的

にいうと、バーでなければなら
ないのですが……

まだ交通が不便なアメリカの居
酒屋は、西部劇でみかけるように

客は馬や馬車に乗つて酒を飲みに
来たのでその馬をつなぐために酒
場の前には高さ1mくらいの横木

をしつらえてあつたのです。そし
て、これが当時では酒場のシンボ
ルとなつていました。

しかし開拓魂(フロンティア)
に燃えたヤンキーは見事にこの片
田舎のよな街を発展させ、やがて

鉄道が通り、自動車が走るよう
になると、この横木を持てなす
ようになつてきたのです。とはい
うものの、せつかく酒場のシンボ
ルになつていつものだからという

ので、とにかくそれを店の中に持
ち込んではみました。天井から吊
るそうか、片隈に立てかけようか
あれこれ考えたあげくハタとひ
ざをたたいた横たえたのがカウン
ターの下だったのです。「馬のか
わりに人間をつなごう!」といふ

「カクテルの王様」といわれ、世
界の人気Z。最も古くから知ら
れています。とくに辛党のかたに
喜ばれ、ジンのシャーブ、ベル
モットのホロニガサのミックスを
冷たいタッチで味わえるのがマテ
ニーのダイゴ味です。

ヘルメス・ジン
ヘルメス・フレンチベルモット1/3
これだけを氷のカケラとともによ
くかきませ、カクテルグラスにつ
いて、最後にオリーブ1コを底に
沈めるとでき上ります。





BONSOIR
MADAME

マダム コンハンワ

飛鳥 ASUKA

新生田筋の中ほどの路地を山手へ入ったところにある小さい店。外観は目立たないが、足を一步なに踏み入れると、クラシック調のくづれていないまに近代味がうまく取入れられた渋さと明るさの交錯し融合した店構えに、マダムの趣味のほどがうかがえるような感じの店——これが“飛鳥”である。

このマダムは決して話し上手というほうではないが、お人柄の良さがしみじみとしのばれて、心のくつろぎを感じさせるような話し相手である。

女の子までがマダムの薫陶を受けておつとりしている。片隅では紅茶を啜りながら女の子と楽しそうに語り合っている客もいる——こんな雰囲気の店だ。

バーテンの倉田氏までがしごく控え目だが、カクテルやオードブルを作らしたら彼の右に出る者が果して神戸に何人いるだろうと云はれるほどの腕前の持主であることを知っている人は少いだらうすべてが控え目の、好感の持てる店だ。

マダムは作った美しさで人目を惹くようなことは大嫌いなたちで服装も、同じ渋さにしても粹き好みを避けた素人臭さを身につけ洋装のときもこの上もなく地味な好みが、人間的な奥行きの深さをひときわ引立たせているようだ

——こんなところにかえってこの人のゆがしい女らしさがにじみ出ているのかも知れないが……(W)



洋品雑貨 元町 2丁目 サノヘ

伝統あるお店

昭和六年に開店いらはずつと「元町二丁目」で、伝統あるシニセを誇るシックなお店、お客様も、落ちついた渋味のある中年層が多い。元町には六十年近く住んでらっしゃるというご主人、佐野平吉氏(75)は、現在の雑貨業界では最古参者というが、いまも元気に自らお店の陣頭指揮に当つてらっしゃる。日本人はなれのしたエキゾチックな風貌に、アカ抜けしたセンスの良さがうかがわれるが、こうしたご主人の人柄が反映して、お店の雰囲気はミナト神戸にふさわしく、エキゾチックなムード

がいっぱい。奥行きのある十三坪の店内に美しく飾られたセーター、ネクタイ、ハンドバッグ、玩具など何百種類もの雑貨は、ほとんどが舶来品一欧洲もの。アチラの特定の店と契約して仕入れてらっしゃるそうで、ハイホルダーなどの小さな品にもこのお店ならではのシャレたセンスがあつて、楽しい気分にさせてくれる。

お客様は、三代も続いているという固定したお客様が多い。亡くなつた古川ロッパさんが「親父さんたつしゃかね」と、よく買いたい物にこられたとか。新珠三千代司糞子、岸恵子さんらの女優陣を



(写真はエキゾチックな神戸のムードがあふれる店内)

はじめ、宝塚の生徒さんたちにも人気がある。お店を切りまわしてらっしゃる芦原マネージャーは、なかなかの勉強家、「品物の置き方などを学ぼうと、この間香港まで行きましたが、店のスケールが大きいのに驚きました。私どもではたえず流行に気を使かい、品物も流行に添うよう仕入れてますお客様には、落着いて静かな雰囲気の中でお買い物していただけるよう心がけてます。店を本通りを避け少し南を選んだのは自家用車が横づけできるようと思つたからです」とお客様への細かい心づくしも忘れない。



浪世場

細野耕三 西勝・画

神戸には地方紙が二つ、三大新聞の支局の他に経済専門紙の支局も二つある。土地柄、経済部の中に海運記者という特殊な呼び方をする新聞記者がいる。

経済部と社会部記者の混合したような性格で、港湾関係、船舶の動静や事件を担当している。私が阪神日報のサツ廻りから海運記者に廻わされたのは入社して六年目だった。海運記者を一度はする、といった事は阪神日報の習慣として出世コースにつながっていた。それだけに私は私なりに張切って、商船ビルの中にある海運記者クラブに、毎日通っていた。

「雨の少い神戸では、そろそろ夏を思わせる六月の月中旬その日も私は十時を廻ってから、海運記者クラブに顔をだした。

毎月のことだが、月の中には各商社が資金繰りの関係から荷積みを控えるので、船舶の出入港も、まばらだし吾々も眼の色を変えて追うような事件はなかった。

「とにかく、面白い話はないのか」

私はシャツの襟を括げて、風を入れながらK紙の記者に話しかけた。

「あれば、先週の週間誌なんか、読んでいいられないね」「御説のとおり、じやあへボ将棋でもさすかな」そんな

ことをつぶやきながら、投げだしてあったK新聞の綴込を取りあげた。K新聞は地方有力紙で、市内の事件は比較的、小さい事でも報道する。私は時間つぶしに、社会面を読みだした。

私の視線がその記事を追っていた時、M新聞の若い記者が、「そうそう、青木さん、社会部の記者ならちよいと気になる話を聞いたんですよ」と云った。

私はめぐりかけた手を止めた。

「ほー、話つて」

「リンチを受けたアンコが共済病院で死んだそうです。

殺されたも同じだ、なんてアンコが喋ってましたかね」私は社会面の片隅にあった見だしの二倍活字が、ふいに六倍活字ぐらいの大きさに見えた。警察(サツ)廻りの記者のくせがまだ抜けていない私は、すぐ呆けるように

「じゃあM新聞の社会部の仲間にお手柄させてあげれば」「それが、市内版にちょっと入らなかつたのですよ。支局は弱いですからね。早く本社に帰らないと、ドサ廻りで終つちまうって、友達はほやいていました。僕も本社

に戻りたいですよ」

「嘆くことはないさ、うちなんかM新聞の支局よりしほつたいだぜ。ところで、その話、いつの事」

「詳しくは知らないのですが、殴ぐらるのは一週間ぐらいい前のような話でした」

「ふーん」

私は生返事をしながら余白の日付に視線を走らせた。

六月九日、一週間前だ。私の眼はきっと事件屋のように光っていたに違いない。だが、私は興味なさそうに

「もつとも、アンコ（日雇労務者）の話じあ、あんまり信用はおけないな。奴等ね、だいぶ被害妄想だしさ。だから警察も簡単に調べて放りだしたんじゃあないかな。これが、背後関係に麻薬が絡んでいるとでもいうんならまた話は別だが」

「でも、うちの社会部の奴がききだしたのは検数協会のターリマンからでしたよ」

「それでもねタという程のものじゃないよ。デスクが潰したのは無理ない。俺がデスクでも、没たよ」

「そうですかね、非人間的だな。新聞社の考え方つて」「どうしてだい」

「たつて人が一人殺されたんですよ。アンコでも人間には変りありません。もし、殺されたのが一般の社会人だったら、警察も新聞社も放つておかないでしねう」

私は黙っていた。私たて表面は興味のないぶりをしながら腹の中では、この事件を追う気になったのも「アンコだから、警察が簡単に調べて投げだした」という事に対する怒りに近い気持からだった。

「さてつと、何もなければお茶でも飲みに行くてくるかな」

「待てよ青木さん、この一盤終つたら一緒にでるから」「彼女と逢引きさ。一緒にでられたんじゃあたまらないよ。お先に失礼」

私はできるだけ感付かれないように、記者クラブをでた。商船ビルをでると、海岸通りを、関西汽船の埠頭の

方に向った。共済病院は、関西汽船の埠頭の入口にあるぐつつきそうだった空が晴れた。強烈な陽射が照りつける臨港線の貨車が鐘を鳴らしながら喘ぐように追い抜いてゆく。私は日陰で昼寝をしているアブレのアンコ達を横眼で見ながら次第に足が早くなつた。何かある。何かあるに違いない。四十八時間ぶつとおしで働かされたアンコ達のどす黒い顔を見ながら歩いて行くうちに、私の予感はだんだん現実性を帯びてきた。

共済病院は労災保険が日雇労務者にも適用されるようになつてから、新しく建てられた港湾労務者専用の病院である、中にはいると、外観のスマートさとは、おおよそ縁遠い患者ばかりがいる。どの顔も疲れ切つて呆心したように虚ろな眼をしている。

外科の受付で、私は新聞社の名がはいっている名刺をだして、事務員に来訪の理由を云つた。

「四月十三日、こちらで死亡しました吉田守夫というアンコ、日雇労務者ですね。その吉田についてちょっとお伺いいたしたいのですが」

事務員は外来患者名簿の綴込みをめくつて「吉田守夫十三日ですね」といながら私の顔色を上眼づかいに何度も見た。

「四月十三日、ありませんね」

「じゃあ、十二日を見て下さい」

事務員は面倒臭さそうに、また綴込みをめくつた。

「吉田守夫、それで私は受付の窓から首を突込むようにしてゆびさした。

「十二日夕刻入院、成程、吉田守夫二十九才、外傷ですね」

事務員は私の要求に困惑の色を浮べながらそばの看護婦に「君、この方が外科の山本先生に面会したいそうだから、山本先生を呼んで」と私の名刺を渡した。

私は応接室と書いた小さな部屋で待たされた。いろいろして、煙草を続けて吸つた。

八担当医師の最初の顔色読むことだ。医者は死人に慣

「御立会になつたのは、山本先生だけですか」

[142]

「本ノを連れできかのに詰でしよふか」

一荷役会社の小頭ですが、荷役事故だといっておりました。この病院で抱き込まれる患者はたいてい荷役中の事

故です。船のハッチ蓋が落ちて当ったとか、荷役用デレ

ツクのワイヤーが切れてそれに巻かれたとか」「つまり外傷で特別の持長は認められない、ハヤシの余

地はなかつたというわけですか」

私はたたみ込んだが、医師は「そうですね、なんと云つても湯所柄ですかう、時こつて考え方で、ここ一

「なるほど、いや、どうも失礼いたしました」

「そうですか、お役に立ちませんでしたね」

役監督と小頭の二人であるという事が判つた。
申すまでもなく、まさに二重監視の三重、二重、

神戸港の港務荷役は、船会社に直結する三井、三菱、川西倉庫の三業者があり、この下に六大元請荷役会社が

ある。K運輸は六大元請会社の一つである。元請会社の

トに二次下請荷役業者かいり、常雇労務者を五十名前後を持つ中資産の会社組織である。二次下請業者の数は六

十一社、この下に三次下請業者があり、この数は二百四

十数、三次下請業者は個人会社であり、親分、子分の関係で結ばれている。したがって従業員と称する常雇労務

者も七、八人から二十名どまりである。更にこの三次下

請業者に出入する手配師と称する人入れ業者がおり、手配師が日雇労務者の就業あっせんを行つてゐる。

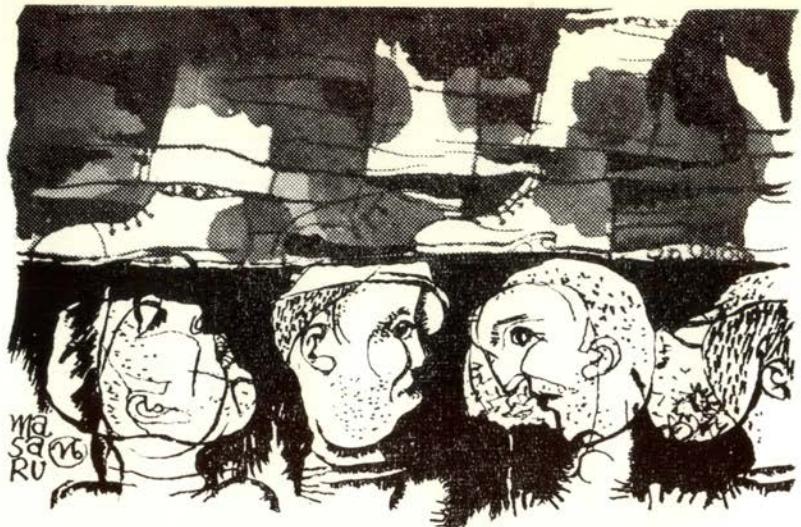
しかも、三大倉庫から手配師に至るまでの縦の系列は

本家、分家、兄弟と呼ぶ前近代的な従属関係にある。三
大會軍と六元清会士は、怪宮の危険分子と口実にして

従業員を減らし、下請業者に荷役を請負わせるのである。

たから、倉庫出し入れ貨物運賃が一屯あたり三百六十円

とすると、三次下た業者はトン当百七十円で仕事をしている。ここに完全な労働搾取があることは公然の事実た



手配師は三次下請会社の小頭という荷役係からアンコの集配を命じられ、人数を三ノ宮駅前の広場や辯天浜あたりで浮浪者と紙一重の連中を集めてきて作業現場に送り込む。だからアンコ達は自分達の労働賃金が幾らであるかという事さえ知らない。いわゆるトンブリ勘定と称して、手配師にまとめて与えられた賃金から手配師が世話を差引き、残額を等分する方式である。

このような労働体系は、終戦後、GHQの港湾労働に関するコンフレンス・メモによって禁止されたのだったが、二十五年の朝鮮戦争によって、急に増大した戦時物資の荷役量をさばくために、再び復活してしまった。勿論、米軍港湾司令部がオリエンタルホテルから引揚げた後も、この体系は港湾労働の必要悪といった形で残された後も、この体系は港湾労働の必要悪といった形で残され、現在に至っている。

その程度の事は私も海運記者の常識で知っていた。だが、下請業者、とくに二次下請業者と元請業者の勢力が神戸港を中心とした市政にまで浸透していた事は想像できなかった。公衆電話が眼にはいった。

私はM新聞の若い記者が検数協会からアンコ死亡を確認したという事を思いだした。△そだ、十二日に荷役があつたK運輸関係で死亡がでるほどの事故があつたか



PINK CORNER

あなたのどんな楽器がお好きですか。バイオリン？ チェロ？ コントрабス？ ギター？ バンジョウ？ マンドリン？ バスト、ウエスト、ヒップという『三段とび』の曲線では『バイオリン型』まさるものありますまい。ただし、

そのサイズが問題です。キング・サイズ時代にはコントラバスのボリュームが愛されました。その時代の『名器』としてフランス製の『マリナ・ヴラデイ』をあげることができます。ところが、トラン

ジスター時代になってから見直されてきたのが、他の小型楽器ですか。バイオリン？ チェロ？ コントрабス？ ギター？ バンジョウ？ マンドリン？ バスト、ウエスト、ヒップという『三段とび』の曲線では『バイオリン型』まさるものありますまい。ただし、

どうか先に洗つておくべきだ。K運輸を行つたところで組の者が喋るわけはないんだし▽と思つた。

元請から三次下請業者、手配師にまで及ぶ従属関係は、業者が相互に隠し合っている。動員荷役能力が明確になると、月末始めの忙繁時に於ける仕事の量が船会社や倉庫業者によって配分される心配があるからだ。波止場ではクイックデスペッチ（早荷役短時間出港）は総ての事に優先して考えられている。法よりも人間の生命よりもクイックデスペッチは大切なのだ。これが港に起る事件の最大の原因になっていることは勿論である。私は電話機のダイヤルを廻しながら、私が知っている範囲から想像できる波止場の機構を考えた。

—以下次号—

せん。ときにはポンポンと軽くたたいてみたくもなります。キミ、キミ、いつたいマンドリンというのは『弦楽器』なのかね。それとも『打楽器』なのかね。コントラバスやマンドリンが『弦楽器』なのか『打楽器』なのかは、むつかしい問題です。ここで注意が肝心なのは、ツボを押しあがえると『管楽器』にもなることです。流れで調べは一ノへ

短調

(T)



THE SECOND COVER

K O B E の北野町あたりにはあ
と驚ろくような神戸っ娘が黒い
髪を春風になぶらせながら坂道を
散歩している……

表紙の女性…太田和子さんは松
陰短大をこの春卒業、生粋の神戸
育ち……趣味はボウーとしている
事。東洋的な美くしさは、神祕的
な魅力がある。背景は新らしく重
要文化財に指定された異人館……

撮影 衣川宏

△神戸っ案内▽
・原稿・カットをお寄せ下さい。
次号から読者の頁をつくりたい
と思います。神戸っ子の声をお寄
せ下さい。明かるい話、ユーモラ
スな話題がほしいものです。
原稿は四〇〇字まで、住所、
名、職業、年令を明記のこと、カ
氏

ー センセイ、私のこどもは絵を
描くといつも太陽を二つも描いて
困るんですが。太陽が二つ
先生「それはこ心配でしよう。と
いから世界が二つの陣営に分かれ
ていいたり、正義も平和もみんな二
つずつありますから、太陽が二つ

PINK CORNER



に見えて仕方がないかもしませ
んが」

ー センセイ、私のこどもは太陽
を紫色に描くんです。が、心配はな
いでしょうか。

先生「太陽は『父』の表徴です。

奥さんのほうが強くて、ご主人の
ほうに紫色の打ち身やダボク傷の
絶えまがないと、紫色の太陽を描
かれても文句がいえないかもわ
かりません」

ー センセイ、私のこどもは太陽
を黄色に描いてしまうんですが：

ットはケント紙に墨書き、ハガキ
½大です。宛先、「編集室」
・神戸の香りをふんだんに、そし
てスマートにもりこんだ、神戸っ
子を皆様のお友達にプレゼントし
て上げて下さい。

神戸を離れて勉強している友達
に、仕事で頑張っている友達に神
戸っ子を送って上げて下さい。き

つと喜こんでいただけます。
送り先を明記して編集室にお申
込み下さい。
・会費 六ヶ月分 五〇〇円。
(送料共)です。
編集室 神戸市葺合区
御幸通8丁目9の1
TEL ②7037

先生「これは何も心配はありません。
むしろ健康な証拠です。かく
も申すソレガシも、若いころは情
熱がありあまって、一晩に五回や
六回ぐらいの『強行軍』をやつた
ものです。おかげで、翌日の朝は
テキメンに、お天道さまが黄色く
見えました。それぐらい情熱を発
見させておくと、もう当分は悪い
ことを考えなくなります、不良化
防止にもなりますなあ」

ー センセイ、私のこどもはまだ
八歳なんですが。

(T)

4月号の発行に色々と
お世話をいただいた方々
宮松芳中 永田滝 塩小古 小川大 榎岡青
地井賀 西井村 川路寺 林林 西淵 並崎木
裏高政 達孝 勝義 喜芳 ツ正 真重
二男夫 勝七 介二孝 岩 楽夫 英一 一雄

編集後記

各方面からのご声援に勇気づけられてスタートした「神戸っ子」の創刊三月号は、ますますのご好評をいただき、編集室一同ホッとしています。

毎日（12日朝刊）、朝日（13日朝刊）、兵庫（16日夕刊）、神戸（18日夕刊）などの各新聞紙上にも紹介していただきました。またたくさんの読者からお問い合わせの手紙や、電話もありました。なかには遠く大阪からお電話くださった方もあり、みんな最高に感激しています。

創刊号に編集室の電話番号②7037を記載するのをすっかり忘れ読者のみなさんに大へんご迷惑をおかけしましたことを深くおわ

びいたします。

本号から「神戸っ子」の読み物として司馬遼太郎氏の「ここに神戸がある」と、細野耕三氏の「波止場」が連載されることになりました。司馬氏は毎月神戸を歩いて新しい角度から「神戸印象記」といったものを書いてくださることになっています。ご期待ください。

「神戸っ子」という名前が話題になりました。「江戸っ子よりイカスよ」「いいじゃないの響きが」と喜んでいただいています。なかには「神戸っ子?、あれは君、ガラが悪いよ」なんて、ワザと逆らう、アマノジャクな方もありました。さてみなさんは、どちらを支持してくださいますか。



月刊「神戸っ子」4月号・発行・S 36. 4. 5 編集／五十嵐恭子 発行／小泉康夫
編集室／神戸市葺合区御幸通8丁目9ノ1 神戸国際会館1階 T E L ②7037 領価70円

兵庫いすゞモーターカー	K・K	表	1
北村真珠	K・K		
元町バザー			
風月堂			
柴田音吉洋服店			
御木本真珠	K・K		
竹馬産業	K・K		
兵庫ジャイアント	K・K		
大黒正宗			
伊藤栄養食品	K・K		
キヨシマ屋			
洋菓子のヒロタ			
三条電機商会			
田崎真珠	K・K		
永田良介商店			
国際コンタクトレンズ研究所			
シラサギ			
イクシマヤ			
タジマ			
千秋堂			
トーレイ洋装店			
つばや			
マキシン			
神戸屋			
フナキヤ			
スギヤ			
神戸シャツ			
マルヤ靴店			
太田べつ甲店			
エスター・ニュートン			
サノヘ			
三恵洋服店			
マーキュリー			
竹田装飾			
長崎堂本店			
元町電機			
神戸トヨベクト自動車	K・K	表	1
兵庫トヨタ自動車	K・K	表	4
4	3 39 39 39 39 38 38 37 37 37 37 36 36 36 35 35 35 34 34 28 28 24 23 23 23 17 17 17 12 12 11 11 2 2		



神戸トヨペット 5周年謝恩セール

ニューコロナと家庭電化製品が
当る豪華なプレゼント、明日の
くらしに夢を生む抽せん券がお
求めの新車（ニューコロナ・マ
スター・ライン・トヨエース）に
もれなくついております。

●期間

昭和36年2月15日より
昭和36年5月15日まで

●賞品

ニューコロナ乗用車
（一名様）

HE-100S型電気冷蔵庫又は
HE-163型ステレオアンサンブル

MC-315P型電気掃除機又は
TI-70型トランジスタラジオ

SSS式N-241型電気洗濯機又は
HE-32型ステレオアンサンブル

HE-163型ステレオアンサンブル

MC-315P型電気掃除機又は
TI-70型トランジスタラジオ

記念品（もれなく贈呈）

キャッスルエンジンオイル
18リットル罐

●発表

昭和36年6月10日神戸新聞紙上

神戸トヨペット株式会社

本社 神戸市兵庫区水木通
尼崎営業所 TEL ⑥四一四一四一四一
姫路市 TEL ⑧二四四一四一四一
姫路市 TEL 二本町二四四一四一四一
二二六町九六八六一一二

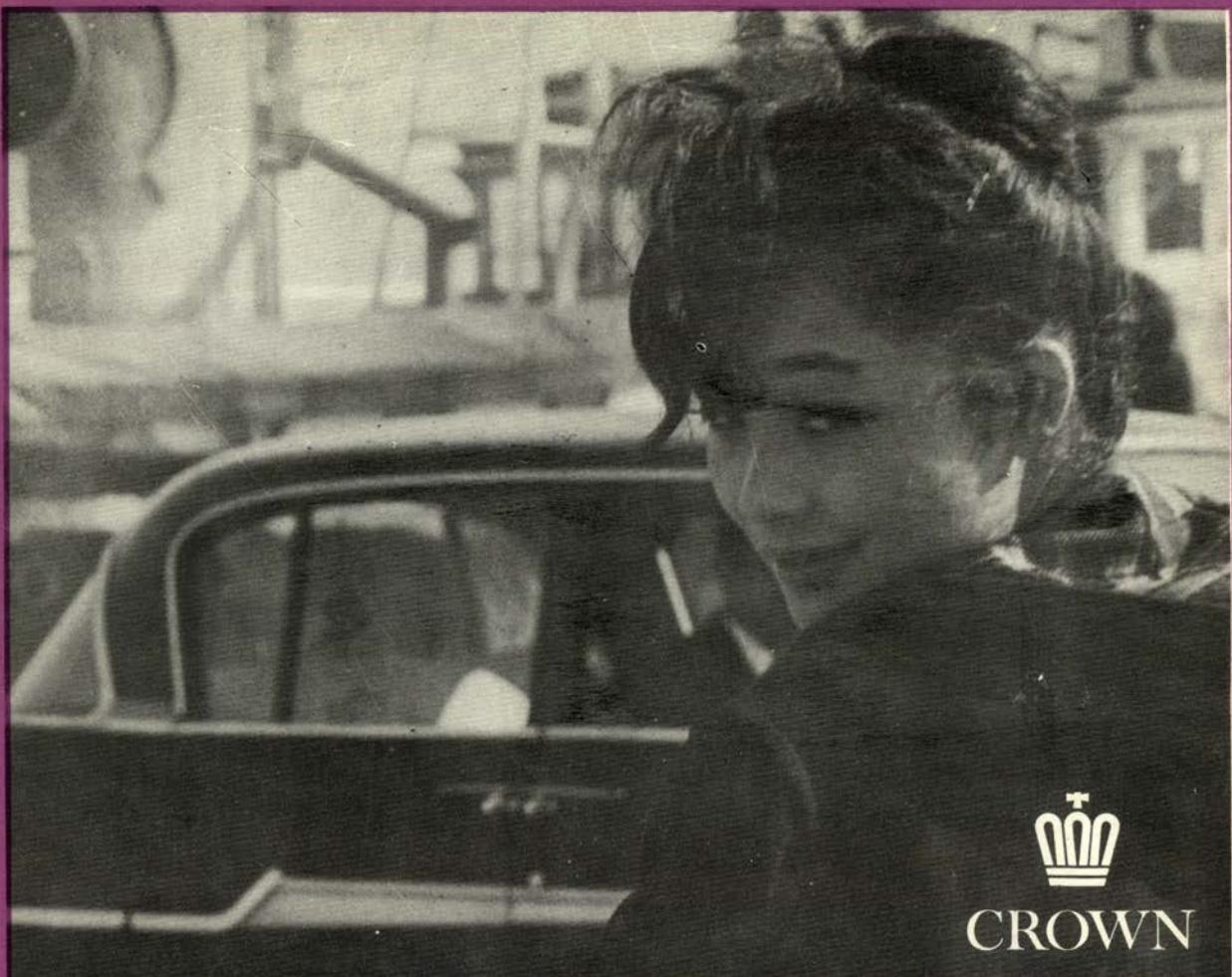
月刊「神戸っ子」4月号

発行所／神戸市兵庫区御幸通八丁目九ノ一
昭和十六年四月五日 発行 每月一回

編集／五十嵐恭子
神戸国際会館一階

TEL(2)770-3377 発行／小泉康夫

頒価七〇円 (送料八円)



*神戸っ子歌手 *木田ヨシ子さん(ピクター)

ご愛車は61年式トヨベット・クラウン・デラックス



CROWN

兵庫トヨタ自動車株式会社

本社・工場 電話(大代表)⑥ 5051
中古車センター 電話(代表)⑤ 1236
尼崎営業所 電話(代表)④ 9401
姫路営業所 電話 874-4147・6478